

そう だい  
総 題 「三つの宇宙的メッセージ」

だいじゅういち か かがみ いん けもの いん いち  
第 1 1 課 神の印と獣の印 (その1)

まつしたこうだい  
松下晃大

いち あんそくにちごご  
1. 安息日午後

わたし たちはこれまで、さんてんし しめい まな とお だいそうとう ちゅうしん そうてん  
私たちはこれまで、三天使の使命の学びを通して、キリストとサタンの大争闘の中心にある争点は  
れいはい まな かがみさま れいはい かがみさま いがい れいはい かがみさま かがみ  
礼拝である、ということを知りました。神様を礼拝するのか、神様以外を礼拝するのか。神様は神  
れいはい ほ うった かがみ いがい れいはい ゆうわく わたし ひび  
を礼拝して欲しいと訴え、サタンは神以外を礼拝するようにと誘惑してきます。私たちは日々そのよ  
えら なか た  
うな選びの中に立っています。

こんしゅう かがみ いん けもの いん にしゅうつづ まな だいそうとう なか  
今週のテーマは、神の印と獣の印です。2週続けてこのテーマから学びます。大争闘の中におい  
さいしゅうてき かがみさま れいはい たみ かがみ いん かがみさま いがい れいはい たみ けもの いん あた  
て、最終的に神様を礼拝する民に神の印が、神様以外を礼拝する民に獣の印が与えられます。

こだい がいん お いちばん りゆう しょうけん しんやくせいしょ いん かがみさま  
古代において、印やハンコを押すことの一歩の理由は所有権でした。新約聖書において印は、神様が  
ごじぶん たみ みと せいれい いん お いみ  
御自分の民を認め、聖霊によって印を押されるということを意味します。エレン・ホワイトによれば、  
いん め み いん れいてき ちてき うご しんり お  
印は、「目に見える印ではなく、霊的かつ知的に、動かされることがないほど真理になじむこと」(『終わ  
じだい しょうじけん にひやくじゅういち いみ  
りの時代の諸事件』2 1 1 ページ) を意味します。

かがみ いん なに たいせつ けもの いん とくちょう まな  
神の印をいただくために、何が大切なことなのか、獣の印はどのような特徴があるのか、学びたい  
おも  
と思います。

に にちようび ふどう にんたい  
2. 日曜日：不動の忍耐

にちようび げつようび かがみ いん まな  
日曜日と月曜日は神の印についての学びです。

「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ち続ける聖徒の忍耐がある」(黙示録 1 4 章  
じゅうにせつ せいこう さんてんし しめい さいご しる  
1 2 節)。この聖句は、三天使の使命の最後に記されてあるまとめでありポイントです。

だいそうとう なか ゆうわく へげ はくがい お かがみさま ちゅうじつ たみ  
大争闘の中において、どんなにサタンの誘惑が激しくても迫害が起こっても、神様に忠実である民  
がいます。その民の特徴が、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ち続ける民です。この特徴  
も たみ かがみ いん う たみ  
を持つ民が、神の印を受ける民なのです。

もくしろうくじゅうよんしょうじゅうにせつ せいこう かがみ たみ にんたい  
黙示録 1 4 章 1 2 節の聖句には、神の民には忍耐がある、とあります。ガイドにはこの忍耐を「不  
どう にんたい やく かいせつ かがみ たみ お かがみ めぐ  
動の忍耐」と訳すことができると解説がありました。神の民は、どんなことが起こったとしても神の恵  
とお ふどう にんたい も た かがみ ちゅうしん  
みを通して不動の忍耐を持って立ち、神を中心とするのです。

神の印は、目に見えないものではありませんが、このように神を中心とした歩みをする中で、不動の忍耐を持つなど、はっきりと表されるものとなるのです。

### 3. 月曜日：宇宙的闘い

ここでは黙示録 1 4 章 1 2 節から、「イエスを信じる信仰」について考えます。このイエスを信じる信仰という言葉は、「イエスの信仰」とも訳すことができる言葉です。神の印を受ける民は、イエス様の信仰を持っているのです。では、イエス様の信仰とはどのようなものでしょうか。

「そして三時ごろに、イエスは大声で叫んで、『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』と言われた。それは『わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか』という意味である。」(マタイ 2 7 章 4 6 節)

この言葉は、イエス様が語られた言葉の中で最も辛く悲しいものです。この言葉にイエス様の信仰を見ることができます。

ガイドの月曜日に、「十字架に架けられ、暗闇に包まれ、世の罪、恥、責めを負い、御父の愛の感覚から切り離されてもイエスはなお、その生涯を通して築かれた父なる神との関係に信頼されていました。」とあります。

イエス様の信仰は確かなものでした。それは、最も厳しい状況の中にいた時も、罪によって神様から離れていた時も、すがりつくものがほとんどない時でさえもすがりついていた信仰です。

イエス様はこのような信仰を持っていました。そして私たちも、日々の信仰の歩みによって、少しずつ神様の愛を知り、神様に近づくことによって、イエス様の信仰を持たせていただくものとなるのです。

そのことが神の印をいただく、終末時代への備えとなるのです。

### 4. 火曜日・水曜日：蒔いたものを刈り取る・小羊に従う者たち

火曜日と水曜日は黙示録 1 3 章から、獣の印について学びます。

黙示録 1 3 章は、サタンが最後の戦いをするために、2頭の獣を呼び寄せ、2頭の獣が激しく活動する様子が記されています。

最初の獣は、サタンから力と王座と権威を与えられ、活動します。その結果は、全地の人々が驚きおそれて、この獣に従います。多くの人々が惑わされるのです。

そして、2番目の地中から上ってくる獣は、最初の獣を拜むようにと人々に働きかけます。そこで、多くの人たちに獣の刻印を押すのです。獣の刻印が無い者には、経済制裁や迫害が起こるといふことも預言されています。

わたし たちは、<sup>よげん</sup> 預言の<sup>まな</sup> 学びを通してこの<sup>と</sup> 最初の<sup>さいしよ</sup> 獣が、<sup>けもの</sup> ローマ・カトリック<sup>きょうかい</sup> 教会であること、<sup>にばんめ</sup> 2番目の<sup>けもの</sup> 獣が、<sup>がっしゅうこく</sup> アメリカ合衆国<sup>はいきょう</sup> 一背教した<sup>しよきょうかい</sup> プロテスタント諸教会であることを知っています。これらの<sup>せい</sup> 勢力の<sup>りよく</sup> 活動はますます<sup>はげ</sup> 激しさを増していくことが<sup>わ</sup> 分かります。

ただ、このような<sup>じだい</sup> 時代にあっても、<sup>かみさま</sup> 神様は、<sup>かみ</sup> 神の<sup>いまし</sup> 戒めを守り<sup>まも</sup> イエスを<sup>しん</sup> 信じる<sup>しんこう</sup> 信仰を持ち<sup>も</sup> 続ける<sup>つづ</sup> 神の<sup>かみ</sup> 民を<sup>ささ</sup> 支えて<sup>ささ</sup> くださいます。

「<sup>かれ</sup> 彼らは、<sup>おんな</sup> 女に<sup>もの</sup> ふれた<sup>かれ</sup> ことのない<sup>じゆんけつ</sup> 者である。彼らは、<sup>もの</sup> 純潔な<sup>こひつじ</sup> 者である。そして、<sup>い</sup> 小羊の<sup>い</sup> 行く<sup>ところ</sup> 所へは、<sup>い</sup> どこへでも<sup>い</sup> ついて<sup>い</sup> 行く。」<sup>い</sup> (黙示録 1 4 章 4 節)

<sup>けもの</sup> 獣には<sup>ぜんち</sup> 全地 (多くの<sup>おお</sup> 民) が<sup>たみ</sup> 従いますが、<sup>したが</sup> 一方、<sup>いっぼう</sup> 小羊の<sup>こひつじ</sup> 行く<sup>い</sup> 所へは<sup>い</sup> どこへでも<sup>い</sup> ついて<sup>い</sup> いく<sup>かみ</sup> 神の<sup>たみ</sup> 民も<sup>たし</sup> 確かに<sup>たし</sup> います。獣の<sup>けもの</sup> 印が<sup>いん</sup> 押され<sup>お</sup> ない、<sup>かみ</sup> 神の<sup>いん</sup> 印を持<sup>も</sup> つ<sup>たみ</sup> 民が、<sup>たし</sup> 確かに<sup>たし</sup> いるのです。

## 5. 木曜日：私たちの唯一の仲保者、イエス

<sup>けもの</sup> 獣の<sup>いん</sup> 印の<sup>よげん</sup> 預言を<sup>まな</sup> 学ぶ<sup>とき</sup> 時、<sup>じぶん</sup> 自分は<sup>だいじょうぶ</sup> 大丈夫<sup>ふあん</sup> だろうか、と<sup>たし</sup> 不安になる<sup>たし</sup> ことがある<sup>たし</sup> かもしれません。確かに<sup>たし</sup> サタンの<sup>ゆうわく</sup> 誘惑は<sup>はげ</sup> とても<sup>はげ</sup> 激しい<sup>はげ</sup> ものです。

しかし、<sup>わたし</sup> 私<sup>さま</sup> たちには<sup>さま</sup> イエス<sup>さま</sup> 様が<sup>さま</sup> います。

「<sup>かみ</sup> 神は<sup>ゆいいつ</sup> 唯一<sup>かみ</sup> であり、<sup>かみ</sup> 神と<sup>ひと</sup> 人との<sup>あいだ</sup> 間の<sup>ちゆうほしや</sup> 仲保者<sup>ひと</sup> も<sup>ひと</sup> ただ<sup>ひと</sup> ひとり<sup>ひと</sup> であって、<sup>ひと</sup> それは<sup>ひと</sup> 人<sup>ひと</sup> なる<sup>ひと</sup> キリスト<sup>ひと</sup> ・イエス<sup>ひと</sup> である。」<sup>いち</sup> (1 テモテ 2 章 5 節)

<sup>わたし</sup> 私<sup>あがな</sup> たちを<sup>すく</sup> 贖い、<sup>だ</sup> 救い<sup>いま</sup> 出し、<sup>みちび</sup> 今も<sup>さま</sup> 導かれて<sup>かみ</sup> いる<sup>かみ</sup> イエス<sup>ひと</sup> 様は、<sup>あ</sup> たった<sup>あ</sup> ひとり<sup>あ</sup> の<sup>あ</sup> 神と<sup>あ</sup> 人との<sup>あ</sup> 間の<sup>あ</sup> 仲保<sup>あ</sup> 者<sup>あ</sup> です。

<sup>さま</sup> イエス<sup>さま</sup> 様は<sup>わたし</sup> 今、<sup>ま</sup> 私<sup>わたし</sup> たちを<sup>ま</sup> 待<sup>わたし</sup> ってお<sup>あがな</sup> られます。私<sup>わたし</sup> たちが<sup>あがな</sup> イエス<sup>さま</sup> 様を<sup>かみ</sup> 選<sup>いん</sup> び、<sup>お</sup> 礼<sup>さま</sup> 拝<sup>しん</sup> することを<sup>さま</sup> 待<sup>しん</sup> ってお<sup>しん</sup> られます。私<sup>わたし</sup> たちは、<sup>あがな</sup> 私<sup>あがな</sup> たちを<sup>あがな</sup> 贖<sup>あがな</sup> ってください<sup>あがな</sup> ました<sup>あがな</sup> イエス<sup>あがな</sup> 様、<sup>あがな</sup> 神の<sup>あがな</sup> 印<sup>あがな</sup> を<sup>あがな</sup> 押<sup>あがな</sup> して<sup>あがな</sup> くださ<sup>あがな</sup> る<sup>あがな</sup> イエス<sup>あがな</sup> 様を<sup>あがな</sup> 信<sup>あがな</sup> じ、<sup>あがな</sup> 神の<sup>あがな</sup> 印<sup>あがな</sup> を<sup>あがな</sup> いた<sup>あがな</sup> だ<sup>あがな</sup> く<sup>あがな</sup> 民<sup>あがな</sup> に<sup>あがな</sup> さ<sup>あがな</sup> せて<sup>あがな</sup> いた<sup>あがな</sup> だ<sup>あがな</sup> きたい<sup>あがな</sup> と思<sup>あがな</sup> います。

## 6. 金曜日：さらなる研究

<sup>かみ</sup> 神の<sup>いん</sup> 印・<sup>けもの</sup> 獣の<sup>いん</sup> 印について<sup>かんが</sup> 考<sup>とき</sup> える<sup>あ</sup> 時、<sup>あ</sup> 安息日<sup>あ</sup> の<sup>あ</sup> 教<sup>あ</sup> えは<sup>あ</sup> とても<sup>あ</sup> 大切<sup>あ</sup> な<sup>あ</sup> もの<sup>あ</sup> となり<sup>あ</sup> ます。神<sup>あ</sup> 様を<sup>あ</sup> 信<sup>あ</sup> じ<sup>あ</sup> たり、<sup>あ</sup> 神<sup>あ</sup> 様<sup>あ</sup> 以外<sup>あ</sup> を<sup>あ</sup> 選<sup>あ</sup> んだ<sup>あ</sup> り<sup>あ</sup> する<sup>あ</sup> ことは、<sup>あ</sup> 「<sup>あ</sup> 信仰<sup>あ</sup> 」、<sup>あ</sup> の<sup>あ</sup> 部<sup>あ</sup> 分<sup>あ</sup> が<sup>あ</sup> 大<sup>あ</sup> き<sup>あ</sup> く、<sup>あ</sup> 信<sup>あ</sup> 仰<sup>あ</sup> は<sup>あ</sup> は<sup>あ</sup> っ<sup>あ</sup> き<sup>あ</sup> り<sup>あ</sup> と<sup>あ</sup> 表<sup>あ</sup> には<sup>あ</sup> 現<sup>あ</sup> れ<sup>あ</sup> ま<sup>あ</sup> せ<sup>あ</sup> ん。

しかし、<sup>あ</sup> 安息日<sup>あ</sup> を<sup>あ</sup> 守<sup>あ</sup> る<sup>あ</sup> ことは、<sup>あ</sup> 誰<sup>あ</sup> を<sup>あ</sup> 選<sup>あ</sup> んだ<sup>あ</sup> り<sup>あ</sup> ている<sup>あ</sup> の<sup>あ</sup> か、<sup>あ</sup> 誰<sup>あ</sup> を<sup>あ</sup> 礼<sup>あ</sup> 拝<sup>あ</sup> している<sup>あ</sup> の<sup>あ</sup> か<sup>あ</sup> という<sup>あ</sup> こと<sup>あ</sup> が<sup>あ</sup> は<sup>あ</sup> っ<sup>あ</sup> き<sup>あ</sup> り<sup>あ</sup> と<sup>あ</sup> 表<sup>あ</sup> れ<sup>あ</sup> る<sup>あ</sup> から<sup>あ</sup> です。安息日<sup>あ</sup> は<sup>あ</sup> 自<sup>あ</sup> 分<sup>あ</sup> の<sup>あ</sup> 信<sup>あ</sup> 仰<sup>あ</sup> が<sup>あ</sup> は<sup>あ</sup> っ<sup>あ</sup> き<sup>あ</sup> り<sup>あ</sup> と<sup>あ</sup> 表<sup>あ</sup> れ<sup>あ</sup> る<sup>あ</sup> 時<sup>あ</sup> になる<sup>あ</sup> の<sup>あ</sup> です。

<sup>あ</sup> 大切<sup>あ</sup> な<sup>あ</sup> こと<sup>あ</sup> は、<sup>あ</sup> 私<sup>あ</sup> を<sup>あ</sup> 創<sup>あ</sup> り<sup>あ</sup> 導<sup>あ</sup> いて<sup>あ</sup> お<sup>あ</sup> ら<sup>あ</sup> れ<sup>あ</sup> る<sup>あ</sup> 神<sup>あ</sup> 様<sup>あ</sup> ・<sup>あ</sup> 贖<sup>あ</sup> い<sup>あ</sup> 救<sup>あ</sup> ってください<sup>あ</sup> ました<sup>あ</sup> イエス<sup>あ</sup> 様に<sup>あ</sup> 思<sup>あ</sup> い<sup>あ</sup> を<sup>あ</sup> 向<sup>あ</sup> け、<sup>あ</sup> 自<sup>あ</sup> 分<sup>あ</sup> は<sup>あ</sup> ど<sup>あ</sup> ん<sup>あ</sup> な<sup>あ</sup> 存<sup>あ</sup> 在<sup>あ</sup> である<sup>あ</sup> か<sup>あ</sup> を<sup>あ</sup> 安<sup>あ</sup> 息<sup>あ</sup> 日<sup>あ</sup> 毎<sup>あ</sup> に<sup>あ</sup> 思<sup>あ</sup> い<sup>あ</sup> 起<sup>あ</sup> こ<sup>あ</sup> す<sup>あ</sup> こと<sup>あ</sup> です。神<sup>あ</sup> 様を<sup>あ</sup> 信<sup>あ</sup> じる<sup>あ</sup> 中<sup>あ</sup> で、<sup>あ</sup> 安<sup>あ</sup> 息<sup>あ</sup> 日<sup>あ</sup> は<sup>あ</sup> 私<sup>あ</sup> たち<sup>あ</sup> に<sup>あ</sup> 豊<sup>あ</sup> かな<sup>あ</sup> 祝<sup>あ</sup> 福<sup>あ</sup> と<sup>あ</sup> 目<sup>あ</sup> 的<sup>あ</sup> と<sup>あ</sup> 価<sup>あ</sup> 値<sup>あ</sup> を<sup>あ</sup> 与<sup>あ</sup> えて<sup>あ</sup> くれ<sup>あ</sup> ます。

「<sup>あ</sup> 安息日<sup>あ</sup> は、<sup>あ</sup> 私<sup>あ</sup> たち<sup>あ</sup> を、<sup>あ</sup> 私<sup>あ</sup> たち<sup>あ</sup> の<sup>あ</sup> 創<sup>あ</sup> 造<sup>あ</sup> 主<sup>あ</sup> と<sup>あ</sup> 結<sup>あ</sup> び<sup>あ</sup> 合<sup>あ</sup> わ<sup>あ</sup> せる<sup>あ</sup> 黄<sup>あ</sup> 金<sup>あ</sup> の<sup>あ</sup> 絆<sup>あ</sup> であり、<sup>あ</sup> それ<sup>あ</sup> が<sup>あ</sup> 終<sup>あ</sup> わ<sup>あ</sup> り<sup>あ</sup> の<sup>あ</sup> 時<sup>あ</sup> 代<sup>あ</sup> の<sup>あ</sup> 最<sup>あ</sup> 後<sup>あ</sup> の<sup>あ</sup> 危<sup>あ</sup> 機<sup>あ</sup> に<sup>あ</sup> あ<sup>あ</sup> っ<sup>あ</sup> て<sup>あ</sup> 重<sup>あ</sup> 要<sup>あ</sup> な<sup>あ</sup> 役<sup>あ</sup> 割<sup>あ</sup> を<sup>あ</sup> 果<sup>あ</sup> た<sup>あ</sup> す<sup>あ</sup> 理<sup>あ</sup> 由<sup>あ</sup> です。」<sup>あ</sup> (ガイ<sup>あ</sup> ドの<sup>あ</sup> 金<sup>あ</sup> 曜<sup>あ</sup> 日<sup>あ</sup> の<sup>あ</sup> 最<sup>あ</sup> 後<sup>あ</sup> の<sup>あ</sup> 文<sup>あ</sup> 章<sup>あ</sup>)

はな あ しつもん  
話し合いのための質問

- ・ マタイ 27 : 45~50 イエス様の十字架を想像してみましょう。人生が打ち砕かれ、何も無  
くなってしまったとしたら、どのように乗り越えますか？ また、そのような経験はありますか？
- ・ 誘惑があった時に神様を選ぶことができるように、忍耐できるように、日々何を大切にしていきたい  
ですか？